



古関野球殿堂入り

音楽で貢献「特別表彰」

野球殿堂博物館(東京) 表彰「候補者に4年連続で
は13日、今年の野球殿堂入 選ばれており、念願の殿堂
りのメンバーを発表し、野 入りを果たした。
球の普及発展に貢献した人 古関は高校野球でおなじ
を対象とする「特別表彰」 みの「栄冠は君に輝く」や
で、2020年のNHK朝 巨人の球団歌「闘魂こめ
ドラ「エール」の主人公の て「阪神の「六甲おろし」、
モデルとなった福島市出身 早大の応援歌「紺碧の空」、
の作曲家古関裕而(本名勇 慶大の応援歌「我ぞ覇者」
治、1909〜1989年) など数多くの野球関連の楽 曲をはじめ、1964年の
が選ばれた。古関は「特別 曲をはじめ、1964年の

東京五輪で流れた「オリ
ピック・マーチ」などスポ
ーツ音楽を手がけた。「エ
ール」でも野球との関わり
が描かれ、スポーツ文化の
発展に貢献してきた。
福島市などでつくる「古
関裕而氏の野球殿堂入りを
実現する会」が2018年
から毎年、同博物館に対し、
古関の功績をまとめた推薦



神宮球場で応援の指揮をする古関(1975年ごろ)(古関裕而記念館提供)

「栄冠は君に輝く」「闘魂こめて」

書を提出してきた。20年に
初めて候補者となり、22年
は1票差で殿堂入りを逃し
た。「エール」や21年の東
京五輪閉会式で「オリンピ
ック・マーチ」が流れるな
ど古関への全国的な関心が
集まり、殿堂入りの機運が
高まっていた。

野球殿堂は、日本野球の
発展に大きく貢献した人た
ちの功績をたたえ、顕彰す
ることを目的に1959年
に創設された。プロ球界で
功績のあった競技者表彰
と、特別表彰がある。殿堂
入りすると、表彰レリーフ
(ブロンズ製胸像額)が野
球殿堂博物館内の殿堂ホー
ルに掲額される。

本県出身2人目

本県出身者の野球殿堂入
りは、プロ野球第10代コミ
ッショナーを務め、プロ・
アマの協調体制を加速させ
たとして2006年に特別
表彰を受けた故川島広守氏
(会津若松市出身)に続い
て2人目。

